## いい表情の子を育む

れいわ れん がつついたち かわさきし しせい しゅうれん おか 令和6(2024)年7月1日、川崎市は市政100周年を迎えます。

そして、市政100周年をお祝いするイベント(事業)が数多く予定されています。

その1つに、市立学校全校(小学校・中学校・高等学校・支援教育学校)が参加している「学校e~ね合サミット」という交流サイトが GIGA端末の中にあり、各校の取組を紹介しています。本校は、昨年度の6年生が総合的な学習の時間に取り組んだ内容「川崎小学校の良さや魅力に関する8つのポスターづくり」について紹介をしています。このサイトを通して、他校の取組やその学校の地域を知り、「川崎のよさ」にふれるよい機会にしてほしいと考えています。

さて、皆さんは、どのようにして現在のような川崎市へと変わってきたのかご存知ですか。

大正13(1924) 発 7月に「川崎町」「御幸村」「大師町」が合併し、川崎市が誕生しています。その当時の人口は 48,394人でした。その後、昭和47(1972) 発 4月に政令指定都市となり、「川崎」「幸」「中原」「高津」「多摩」の5区が誕生しています。そして、昭和57(1982) 発 7月には、高津・多摩区の分区により、「宮前区」「麻生区」が誕生し、現在の7区制になっています。全国的に人口が減少し少子高齢化が進む中、本市は人口が増加し、平成29 (2017) 幹 4月には人口150万人を突破しています。

そして、川崎市のマーク(市章)は、「川崎」の「川」の字を繋すだけでなく、市民の歴史とともに流れ続ける多摩川と、それと同じように発展する「川崎」を象徴するものとして、大正14(1925)年に制定されたものとのことです。

川崎市のことを調べていくうちに、「川崎市歌の歌詞が変わったのはなぜなのか」「川崎宿があった時代はどのような雰囲気だったのだろうか」などと、知りたいことが淡々と浮かんできました。今は、ネットで検索すれば答えがすぐに見つかる時代です。だからこそ、本で調べたり、人から話を聞いたりしたいものです。保護者や地域の方々の中にも本校を卒業された方が多いと何っています。もう少ししたら夏休みです。この機会に、お子さんと一緒にその時代に思いを馳せてはいかがでしょうか。

こうちょう やまかわ よしみ校長 山川 佳美